





日本という豊かな自然の中に生きる
温かみ、美しさ、潔さ、力強さ、そして尊さ
一日一日を丁寧に選び取り
自然と共に生きるという提案

手のひらに自然と歴史と日本。





IPPONGI

日本において「木」の存在は、日本人という概念が生まれるずっと太古の昔から私たちの生活を支えてくれています。「木」は自然が与えてくれたとても尊いもの。私たちは、この偉大なる自然をただ利用する為に支配するのではなく、在るがままを受け入れ、寄り添うことで共に歩んで参りました。

今日でも、日本の国土の2/3にも及ぶ広大な土地が森林に覆われています。木に守られ、共存してきた日本だからこそ、その存在の重要性を知り、そして伝えるために、今、改めて素直に向き合いたい。そんな想いで生まれたのがこのIPPONGI(いっぽんぎ)です。

その手触り、温かみ、親しみ、安心感、そして何十年もの歳月を経て私たちの手の中に届いた命そのものの息遣いを感じて欲しい。IPPONGIは毎日毎日、木に向き合い続けている木地師である匠頭漆工からのメッセージです。一本の木から挽かれたIPPONGI。触れた瞬間の感動、そして共に歩いていく中で変化していく姿を味わっていただけたら幸いです。

匠頭漆工一同



自然素材「木」の再考

「木」という自然が育む素材は、まさに日本が紡いできた恵み。木が持つ木目や節の美しさ、自然本来の色味、温かみは一つ一つ違います。私たち人間が一人一人違うように、木も一つとして同じものはないのです。そして、木から生まれる器は毎日の生活を共にすることで変化し、成長していきます。これは自然素材だからこそ。IPPONGIを通して、「木」という魅力、そしてこれまで自然と木と日本人が寄り添ってきた歴史そのものを感じて頂ければ嬉しいです。あなただけの出会いの器をお楽しみください。

作品ではなく毎日の器に

日本が誇る伝統工芸である漆器はその美しさ、繊細さで人々を魅了し続けてきました。私たち山中漆器は石川県内の「塗の輪島」「蒔絵の金沢」に並び「木地の山中」と称し、その品質の高さから多くの方に愛されています。しかし一方で多くの伝統工芸がそうであるように、漆器は一つの商品を作り上げるために様々な工程を分業で行い、多くの人々の手を介します。貴重な技術を用い、工程が増えることで自ずと高価になり、“伝統工芸高級品”として人々の生活から離れてしまっているのが現実。それに代わり日々の生活の器は、手に入れやすく均一な化学素材に取って代わってしまっています。匠頭漆工では、培ってきた技術、知識、経験をフルに活用し、「木」を一人でも多くの方々に手に取って頂き、毎日の生活に寄り添えるような“身近”で“毎日の”器づくりをしたい。この実現に向けて、木素材そのものの質、単価やデザイン、使い方など多角的に新しい取り組みを進めています。

私たちが“木地師”です

山中漆器は、山師から始まり、荒挽き屋、木地屋、塗師屋の手を経て一つの器が出来上がります。私たち木地師は漆を塗る前、木を削り出して器を形作るまでが担当です。器の仕上がりは、木材自体の水分調節、表面の仕上がり方等、木地の仕上がりによって大きく左右されます。木地師の作業は常に緻密で、高い技術が必要な作業です。しかし、多工程の間に埋もれ、今私たち木地師をご存じの方はあまり多くないのが現状です。このIPPONGIを通して木地師という存在を一人でも多くの方々に知って頂きたい。そして、伝統工芸には様々な工程があり、多くの人々の技術や想いが籠っていることを伝えたい。そんな願いを込めて、敢えて既存のジャンルを超えたチャレンジをする、それがこのIPPONGIです。私たちの技術と想いを最大限に詰め込み、粹に捉われずこの器たちを作り出しました。

五種の雄

木そのもの、そして技術を毎日存分に愉しんで頂くために、IPPONGI では 5 種類の器をご用意しました。優美な曲線、そして挽き方によってぐっと変わる表情の違いをお楽しみください。



深緋 / KOKIHI

たっぷりのボウルで香りと余韻をお楽しみ頂ける深緋（こきひ）。ポルドーに代表される、カベルネ・ソーヴィニヨンやメルローを基準に熟し枯れたワインを楽しんで頂くのがおすすめです。

「深緋といふは緋の色甚深くして黒くなりたるをいふ。たとへば桑の実の、初は赤きが、後黒となりたるが如しといへり」これは明治時代の『歴世服飾考』の中の言葉。深緋とは、紫みの暗い赤色で、茜と紫とで染めたもの。名称にある緋の色感はなく黒みの強い色です。飛鳥や奈良時代までさかのぼると役人の装束の色として使用されていたほど、非常に重要な高貴な色合いです。是非お飲物とリンクさせてあげてください。



紅鳶 / BENITOBI

見ていてうっとりするような繊細な曲線美とふわっと膨らんだボウル部分が特徴。ブルゴーニュに代表されるピノ・ワールやイタリア・バローロに代表されるネッピオーロのような少し茶褐色によった繊細でエレガントな色合いのワインに是非。奥行きと深みのある味わいを更に器が引き出します。丁度良いサイズ感なので、アイスコーヒーや和酒など様々な遊びのある飲み方もおすすめです。鳶の名がついた色。力強さと美しさを共に兼ね備えた優雅な姿を名前に投影しています。



紺瑠璃 / KONRURI

毎日の食卓に登場させたい。すっぱりと手に収まる安心感。ワインは勿論のこと、飲物全うえて特定の飲物を連想させない。共に歩むパートナーによってうなそんな器です。瑠璃色はの宝「七宝」にあげられる青重されています。この器も人の宝として、長く愛されるも

た。ワインは勿論のこと、様々な使い方が出来る個性豊かなラインナップ。それぞれが持つ



瓶覗 / KAMENZOZOKI



裏葉 / URAHA



シンプルで優雅な佇まいと、
が共存する愛らしい紺瑠璃。
般にお使いいただけるので敢
いような名前を付けました。
様々なアイデアが生まれるよ
な仏教において珍重された七つ
色の宝石であり、古代から珍
々のスタンダードとなり、日々
のとなりますように。

「瓶を覗いた色」という何とも詩的な色合いを名前に。水
に投影される季節や天気、空気感、感情によって色々な可
能性を秘めているような奥深い表現に、この器がぴったり。
その日の気分、一緒に楽しんでいる料理やおつまみ、そして
場所によって様々なものを使用でき、使う方によって無
限の可能性を引き出せるフォルムや手触り、サイズ感を表
現しました。美しい色彩のカクテルから、日本酒、更には
お食事の器など、アイデア次第で楽しみ方が次々と生み出
されます。江戸の人の茶目っ氣を拝借して私たちなりの楽
しみ方を見つけましょう。

四季のうつろいを繊細に感じ、愛でてきた日本人だから
こそ気づいた「葉の裏」という美しい表現。小ぶりで愛お
しいフォルムや、手の中から自由に飛んでいくような軽や
かさままさに自然の中の「葉」そのもの。こちらも様々な
使い方の可能性を秘めているため、どの葉だろう、と色々
なアイデアを考えたいくなるような色を名付けました。甘口
のワインなど小ぶりのグラスで飲むものから、日本酒、ハー
ドリカー、グラッパなど食後まで大活躍の予感です。ころ
んと手のひらの中で愛らしい裏葉に、何を入れて飲みます
か？

木を愉しむ

「木」という自然の恵みを更に理解し、愉しみを深めるために IPPONGI では6種類そして口に付け飲み込むまで、私たちが持つ五感をフルに使って是非味わってください。



欗 けやき

木目がはっきりし佇まいもしっかり。木が持つ力強さを楽しみたい方に。一方で素材としては暴れ木と言われ、落ち着くまでは一苦労。手がかかる分だけ可愛い欗です。

日本の広葉樹の中で第一の良材として古くから建築材、家具材、建具材、造作材として幅広く用いられてきました。特に寺社建築に重用されたり、家の大黒柱としても役目を果たします。



檜 ひのき

きめ細やかで柔らかな木質。白く艶っぽい雰囲気をもっています。独特な香りもリラックス効果があり、見た目、肌触りそして香りと三本拍子揃い組。知名度も高く、多くのファンがいます。

奈良の法隆寺、三重の伊勢神宮、東京の明治神宮の鳥居など古くからある木造寺社建築には檜が多用されています。1000年の材で1000年のものが出来る逸材です。



水目 みずめ

全体的に包み込むような柔らかな印象が落ち着く水目。木質は重硬かつ緻密で良質な為、高級材として家具などにも重宝。弾力性も高いので古くは弓などに用いられていました。

正式名は水目桜。桜に似て滑らかで非常に挽きやすいのも特徴で、山中漆器では欗、栃と並んで広く好んで使われている木です。

木育

“木育”という言葉をご存じでしょうか。これは林野庁が推進している木を広める取り組みです。木を育てる。木で育つ。毎日木に触れ、長年向き合ってきた私たちだからこそ、伝えたいことが沢山あります。

木の歴史=日本の歴史とっていいほど、日本人にとっての「木」という存在は非常に重要な要素です。多くの無機質なものに囲まれている今だからこそ、日本という国にとっての「木」を再考し、生活の中に改めて提案していきたい。そして、木という素材そのものを「知る」ことを通して、私たちの根幹である日本や日本の歴史、文化などの魅力や重要性を再認識するきっかけを作りたい。木と共に改めて生きる。木と共に明日を歩む。IPPONGI はそんな想いと使命を持ち、全国にそして世界で様々な取り組みを行って参ります。

頂の木をご用意。それぞれが持つ優美さ、力強さ、奥ゆかしさ…見た目で、香りで、肌触りで、注がれる音で、
さい。6種以外にも隠れた名木もありますので、ご興味のある方は是非お問い合わせ下さい。



桜
さくら



柝
はと



檜
ひの

少しピンクがかった木肌は実に滑らかで、色合いも美しく春満開の麗しいイメージから人気も高い桜。表面が綺麗に仕上がることから江戸時代の浮世絵や書籍の印刷用の版木は殆ど桜だったようです。

他にも琵琶やバイオリンの弓、ピアノなど様々な楽器にも多用されています。まさに日本の心の清らかさを表現した木です。

女性の肌のような繊細で甘美な肌触りが特徴。佇まいはどしっとしているので強さと繊細さが同居しています。加工を施して魅力が増すので、腕物を筆頭に家具、建築、器具、楽器など様々な場面で活躍します。

児童文学「モチモチの木」に登場するのはこの柝の木。種子の柝の実実は柝餅としても有名で縄文時代から私たちの側で活躍しています。

全体的に硬さがあり、表面の模様が多彩で面白い檜。少し武骨さがある反面、そこにいると安心する存在感があります。山中では後光と呼ぶこともある表面の筋はまさにオンリーワンの真骨頂です。

私たちに馴染み深いドングリの木の一つとしても有名。ワインやウィスキーの熟成樽にも使われ、木本来の生命そのものを表現する力強さがあります。



私たち匠頭漆工は「美しい森林づくり推進国民運動 フォレスト・サポーターズ」のオフィシャルサポーターです。フォレストサポーターズは現状を知り、森のために出来る行動を起こし、「植えて、育てて、収穫して、上手に使って、また植える」という“森づくりの環境”を蘇らせることを目指す林野庁主導の国民運動です。私たちもモノを生み出すだけではなく、IPPONGIという存在を通してメッセージを伝え、一人でも多くの方が一歩を踏み出すきっかけを生み出せるよう尽力して参ります。

フォレストサポーターズ



匠頭漆工としての想い

匠の高みを目指して。匠頭漆工（しょうずしっこう）は昭和21年の初代匠久・久保出政雄の創業以来70年以上もの間、毎日毎日“木”と向き合い、挽き続けてきた石川県加賀市の木地屋です。これまで一つ一つ丁寧に器を生み出し、手掛けてきた型の総数は優に1000を超えています。私たちの強みはその技術と素直さ。木という自然素材と共に歩むことを真正面から受け止め、木と対話しながら伝統的な技術と、独自の乾燥技術や鉄鋼旋盤という量産を可能にした轆轤挽きという現代の技術を融合させました。私たちが培ってきた技術、経験、知識は、木を支配することなく調和する。そしてその自然素材としての魅力を、木地屋の存在そのものを一人でも多くの人に知って欲しい。そんな熱い気持ちを持ちながら日々鍛錬しています。IPPONGIをはじめ、新しい取り組み、そしてオリジナル製品の受注も行っておりますので、お気軽にお問い合わせください。



IPPONGI ご使用に関して

IPPONGI はナノグラスコーティングというクリア加工により、ワインのステインや色の濃いものを入れても、色移りの心配はありません。

アイデア次第で使い方は無限大。

毎日の大切な時間を IPPONGI でお楽しみください。

株式会社匠頭漆工

〒 922-0823

石川県加賀市黒瀬町 347-2

0761-73-0778

✉ shozushikko@gmail.com

http://www/shozushikko.com

instagram @shozushikko

facebook @shozushikko

#shozushikko

#ippongi

#匠頭漆工

#山中漆器

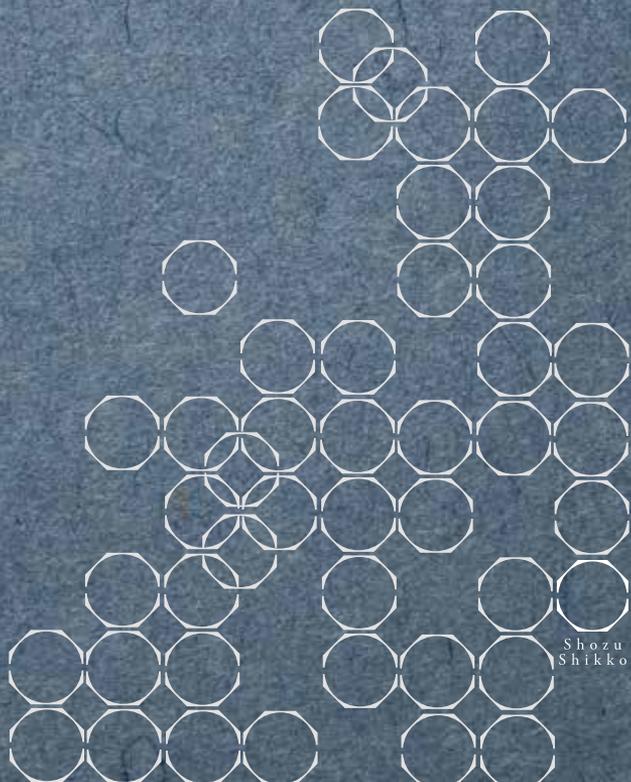
#木地師

私たちが匠頭漆工です。

Special thanks to

山口県 徳治和紙ワークス

& とくち手すき和紙 千々松和紙工房



Shozu
Shikko

木と共に生き、育つ



【IPPONGI】 いっぱんぎ

①一本樹：一本の“木”から切り出した木という自然そのものの魅力、そしてその力強い美しさを引き出す技術との融合を魅せる

②一本気：純粋で混じりけのない自然の尊さを一途に伝えていこうとする心持